

抄録・重次俳句論 ―土生重次、かく語りき―

― 内容目次 ―

《総論編》

《実践編》 語録

- ◆ 俳句は平凡の中から非凡を見出す詩である
- ◆ 俳句は自然と人間との関わりを詠う詩である
- ◆ 俳句は哀しみの文芸である
- ◆ 俳句は感動を詠う詩である
- ◆ 俳句は「何を詠うか」ではなく「いかに詠うか」だ
- ◆ 説明と描写
- ◆ 俳句は映像の交換である
- ◆ 発想と表現の一体化を
- ◆ 言葉はやさしく、思いは深く
- ◆ 季語 ― 非凡の一と節を支えるもの ―
- ◆ 俳句は各論
- ◆ 俳句は断定の文芸である
- ◆ 俳句は要を描いて扇全体を提示するもの
- ◆ 俳句は「今」をとらえる文芸である
- ◆ 俳句の諧はユーモア、そして諧は哀しみ
- ◆ 俳句はものに託して心を詠う文芸である
- ◆ 飛躍と独善 ― 着地あってこそその飛躍 ―
- ◆ 俳句は逆転の発想の文芸
- ◆ 虚と実 ― 俳句は上手にウソをつくこと ―
- ◆ 俳句の「三カン王」 Ⅱ (「感」・「観」・「勘」に思いたす)
- ◆ 「軽み」は三歳の童子の心から
- ◆ 俳句は「心」や「情」を直接的に詠ってはならない
- ◆ 俳句は「坐五」がいのち
- ◆ 俳句は名詞で勝負
- ◆ 抽象を逆手にとった「もの」俳句
- ◆ 擬音語は意外性と、より確かなリアリティを生むものを
- ◆ 決まれば感動、擬人法
- ◆ 見立てはモノとモノで
- ◆ 破調 ― 屈折した心を詠うシンクローション ―
- ◆ 馬から落ちて落馬していませんか？